

# 3R瓦版 (8月号) 2017年



© 2017 フジコ イトウ All Rights Reserved.

## 夏はうちわ、冬はペレット。もっともっと暮らしに木を。

こんにちは。京都市内で木の燃料屋をやっています「京都ペレット町家ヒノコ」と申します。薪炭革命～日本の木をもっと暮らしの中へ～をコンセプトに、木製品、薪、炭、ペレットなど木の商品を並べています。最近の売れ筋は「木のうちわ」。大分県産材の間伐材からつくられたうちわは、あおぐとフレッシュな杉の香りが広がります。暑さにぐったりした体によく効きます。

さて、間伐材というものにどのような印象をもたれますか？ 世間ではエコ素材の代表選手のように言われている間伐材ですが・・・本当にそうなのでしょうか。

間伐とは、木の育成作業（主に杉やひのきの人工育成林）のひとつで、育成が悪かったり、曲がっていたりする木を間引くことで、残った木を立派に育てていきます。その時、切り倒した木を「間伐材」と称します。昔は大切な資源として重宝されていたものの、最近では山中にそのまま残し、腐らせてしまうことが大半です。二酸化炭素が排出され、それが山の環境にとっていい状態でないため、間伐材を放置せず有効活用しましょう！といわれる所以です。

健全な山を維持するために間伐は欠かせない作業ですが、真の目的は立派な木材を育てる、ということにあります。けれど、日本の木材利用状況を見てみると、国産材の使用率は全体のたった3割となっています。国土面積の7割が森林、森林保有率世界第3位という数字を持つ森林大国において、その数字は劇的に少ないです。自国に豊富にある木を使わず、木の少ない国から輸入しているのが現状。間伐材利用より、まずは立派に育てて木を収穫して使うことが先ではないか、と思わずにはいられません。国産の木自体の消費があがったその先に、間伐材利用があるのではないのでしょうか。

深刻に考えるより、まずはできる範囲で、自分にあった形で木を暮らしに取り入れていくことが何より大切。そんな方法をお伝えするためスタッフ一同、日々奮闘しています。どうぞお店に遊びにきてくださいね。



REPAIR  
FACTORY

(有)本杉工機

京都府久世郡久御山町田井新荒見 220 番地

tel : 0774-66-6254

株式会社 Hibana

京都ペレット町家ヒノコ

松田 直子

<http://www.hibana.co.jp/kyoto-pellet/>